

2nd June 2015

IOF 臨時総会への提案

IOF Council は世界選手権 (WOC) のプログラムを再編し、WOC の開催を 2 年毎とし、2019 年からスプリント WOC と交互開催とすることを提案する。

【背景】

これは、現状の WOC プログラムで開催国の確保に課題がある点を踏まえ、各国の連盟、エキスパートグループの意見も踏まえた IOF の競技見直しプロジェクト (Competition Review Project)からのフィードバックを受けて、Council が提案するものである。

現状の WOC はオリエンテーリングの祭典として相応しいプログラムであることは確かであるが、同時に大きな課題を抱えている。今までの開催結果からフィードバックすると、現状の WOC は、オリエンテーリング先進国を含むほとんどの開催国にとって、財政的、組織運営的、また TV 等メディア対応などの点で、大きな負担となっている。さらに、2019 年の開催国は未だ決定していない。

この点を考慮しつつ、一方で WOC の質そのものは現状から妥協すべきでないとの見地から、Council としては、この WOC プログラム再編の提案を、各国連盟に向けて行う。

IOF 競技見直しプロジェクトと調整の上、2014 年の総会で提示したように、最も重要となる WOC プログラムの変更自体は、2016 年の本プロジェクトの結論より前倒しで実行に移る。その後の (具体的な) 提案は、今回の結論に大きく影響され、(結論を出さないか限り) その先が不透明になることから、Council はインバネスの臨時総会でまずこの提案を進めることが必須であると判断した。

【提案の詳細】

プログラム及び参加条件のルール<素案>

WOC 3 種目を 5 日間で実施

決勝 3 種目

- ・ミドル決勝
- ・ロング決勝
- ・リレー決勝

予選 1 種目

- ・(種目未未定)

参加者

ミドル及びロング

①以下の者が各種目の決勝 (予選を実施する場合は予選) に参加できる。

- ・各国枠最大（男女）3名
 - ・（同種目の）現世界選手権者
 - ・（同種目の）大陸選手権者（例えば AsOC）
 - ・前年ワールドカップ優勝者
- ②すべての国は決勝に参加できる。（但し、WR や予選タイムなどの脚切りはあり）
- ③詳細の参加要件は、2016年のプロジェクト完了までに提示

リレー

- ①各国男女それぞれ1チーム3名

スプリント WOC

3種目を5日間で実施

決勝3種目

スプリント

スプリントリレー

「新種目」

予選1種目

スプリント予選

参加者

- ①スプリント予選は、以下の者が参加できる。
- ・各国枠最大（男女）3名
 - ・（同種目の）現世界選手権者
 - ・（同種目の）大陸選手権者（例えば AsOC）
 - ・前年ワールドカップ優勝者
- ②スプリントリレーは各国1チーム（男子2名+女子2名）
- ③「新種目」フットOコミッションが検討する。

2019年より開始

WOC開催は奇数年 2019年、2021年・・・

スプリントWOC開催は偶数年 2020年、2022年・・・

【提案メリット（理論的根拠）】

- ・大会主催国にとって負担が軽減される。プログラムは、WOC、スプリントWOCいずれにおいても、最大5日間のうち3種目の決勝と1種目の予選
- ・各WOCにおいて（種目の）ばらつきが少なくなることで、より質の高いイベントを提供できる可能性がある。開催コストが縮減されるので、各国の連盟にとってはWOC開催の魅力が高まる。
- ・WOCに参加するチームにとっても、宿泊費や参加費、その他経費が縮減される。

- ・ミドルもしくはロングにおける予選方式の復活。

- ・スプリント WOC はオリンピックやサッカーの WCup の開催時期に合わせて柔軟に変えることができる。また、今後財政的、組織的なサポートを整えれば、新しい開催地を目指すことも可能。

【継続課題】

- ・スプリント WOC を「新種目」を決定すること。新種目は、大会開催側にとって実施可能でかつ、テレビ、メディア、競技者、観客すべてにとって魅力的でなければならない。

- ・WOC の新しいプログラムは、IOF のその他の競技日程（ワールドカップ、大陸選手権など）に大きな影響を与える。検討した上で、2016 年の総会（General Assembly）で競技日程案を提出する。

- ・WOC2019 の開催国は 2015 年末までに決定しなければならない。Council の提案が臨時総会で支持されれば、すぐに、新プログラムでの WOC2019 開催国を公募開始する。